

## 第 7 回マザーレイク 21 計画学術フォーラム 結果概要

開催日時・場所
平成 30 年（2018 年）8 月 10 日（金） 14 時 00 分～16 時 00 分 滋賀県庁北新館 5-B 会議室
出席委員
井手委員、清水委員、田中賢治委員、田中克委員、津野委員、西野委員、平山委員、 （欠席：堀越委員、脇田委員、佐野委員、）
主な内容
<ul style="list-style-type: none"> <li>マザーレイク 21 計画の指標を整理し、琵琶湖の状態を把握するための資料「びわ湖と暮らし 2018（案）」について、内容の妥当性と効果的な編集および、マザーレイク 21 計画のふりかえりについてご意見を頂いた。</li> </ul>
主な意見
<ul style="list-style-type: none"> <li>■「びわ湖と暮らし 2018（案）」について <ul style="list-style-type: none"> <li>流入負荷は改善しているが、琵琶湖の水質はよくなっていない。滋賀県独自の指標を導入する必要があるのではないか。</li> <li>P 3 5 の年表について、琵琶湖と河川とあるが、この間にある内湖・水田という項目も必要では。</li> <li>びわ湖と暮らしに関して広報をさらに行うべき。</li> </ul> </li> <li>■ふりかえりについて <ul style="list-style-type: none"> <li>県の他の計画と重複している部分がないよう、今後の方針を決めるべき。</li> <li>南湖では琵琶湖にアクセスしづらく、北湖は行政に管理されすぎている部分がある。人々が琵琶湖と触れ合う方法をもっと考える必要がある。</li> <li>ML 2 1 計画は閉じているような印象を持つので、県外から来る人を受け入れるスタンスを持つべき。</li> <li>ML 2 1 計画は市民の声をくみ取る形で策定しているが、びわコミ会議参加者全員が ML 2 1 計画を理解しているわけではないので、計画全体からみた評価の視点が欠けているのではないか。</li> </ul> </li> </ul>
今後の方向性
<ul style="list-style-type: none"> <li>いただいた意見を基に、今後さらにわかりやすく琵琶湖の現状を伝える資料となるよう、記載内容や表現方法等を工夫していくとともに、マザーレイク 21 計画のふりかえりを行い、今後の方向性を検討していく。</li> </ul>

第7回マザーレイク 21 計画学術フォーラム 委員名簿

	委員名	専門 研究分野	所属、役職	備考
1	井手 慎司	住民活動論	滋賀県立大学環境科学部 教授	
2	佐野 静代	地域環境史	同志社大学文学部 教授	欠席
3	清水 芳久	環境質管理	京都大学大学院工学研究科附属 流域圏総合環境質研究センター 教授	
4	田中 賢治	水文・水資源工 学	京都大学防災研究所附属 水資源環境研究センター 准教授	
5	田中 克	魚類生態学	京都大学 名誉教授	
6	津野 洋	水環境工学	京都大学 名誉教授	
7	西野 麻知子	生物多様性保全	びわこ成蹊スポーツ大学 スポーツ学部 教授	
8	平山 貴美子	森林生態学	京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 講師	
9	堀越 昌子	食環境学・食文 化	京都華頂大学現代家政学部 教授	欠席
10	脇田 健一	地域社会	龍谷大学社会学部 教授	欠席

五十音順（敬称略）